

ひょうご

428

MIN-IREN

2026.3・4
合併号



31回目の1月
記憶をつなぎ、備えを未来へ
阪神・淡路大震災から31年——語り継ぐことが、防災になる

兵庫民医連では、2025年から2026年にかけて、阪神・淡路大震災の記憶を語り継ぐ取り組みを行いました。昨年11月に行われた「全国ジャンボリーin兵庫」では全国の青年職員が阪神・淡路大震災の記録を辿りました。「ENS～近畿地協看護学生ゼミナール～」では～「震災と民医連看護」をテーマに、

学習講演と避難所体験を通して看護学生として災害時に何ができるか考えました。また1月17日当日は例年通り「メモリアル集会」も行われました。

震災を知らない若者や、震災後に兵庫に暮らし始めた人が増える一方で、当時の体験を直接語れる人は年々減っています。南海トラフ地震の危険



性が指摘される今、30年を超える経験を「過去」にせず、命を守る知恵として、次世代へ継承していくことが私たちの責務です。

事業所・職場紹介

輝いています！

地域に支えられた10年と 地域福祉の基盤としてのこれから

社会福祉法人駒どり 特別養護老人ホーム駒どりの郷 施設長 友永 良道

駒どりの郷は、2016年4月に神戸市北区の自然豊かな大池地域に開設されました。

大池地域の福祉の特色として、半径1.5km内に病院や福祉事業所が多く集まる「住まいとしての福祉」が発達した地域であり、在宅に近い暮らしを大切にす文化が根付いています。その中で駒どりの郷は、より重度の方や長期的な生活支援が必要な方をしっかり支える“地域の最後の砦”としての役割を担ってきました。



そんな中、2021年度の地域包括支援センター主催の地域ケア会議において「認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、必要な支援」をテーマに話し合い、①高

齢者の役割の創造 ②身近な相談窓口 ③福祉教育 といった課題が抽出され、2025年に大池地域で福祉フェアを開催することが決定しました。以降、毎年の認知症声掛け訓練や実行委員の活動を通じて、地域の方々や他事業所とのつながりを深め、2025年10月に地域の中学校体育館にて「第1回西大池福祉フェア」を開催することができました。ステージや複数のブースを設置し地域のつながりを実感できるイベントとなりました。

駒どりの郷は、開設以来「地域とともに歩む特養」であり続けています。

大池の穏やかな環境の中で、利用者さま一人ひとりの人生に寄り添い、安心と尊厳を守るケアを提供してきました。これから



も地域の皆さまに信頼される施設として、より良い介護を追求していきます。



〈フェアの内容〉

- ステージ企画
認知症についての基調講演、声掛けの良い例・悪い例の実演演劇、中学校の吹奏楽部による演奏。
- 高齢者ブース
車いす操作、高齢者疑似体験・視覚障害等の擬態体験。
- 健康ブース
骨密度測定、血管年齢測定、健康相談。
- 食事ブース
障がい者支援事業所、地域スーパー、キッチンカーの協力による飲食提供

事業所の窓から～歴史と地域紹介～

社会福祉法人駒どり

土地を知り、人を知り、暮らしを支える

25

地域の記憶とともに 受け継がれる 北区の文化

駒どりの郷は、神戸市北区西大池にあり、地域に暮らす方々とともに、日々の暮らしを支えながら歩んでいます。そのなかで感じるのは、健康や暮らしを支えることは、身体のケアにとどまらず、その方が生きてこられた土地や記憶、文化に耳を傾けることでもあるということです。

神戸市北区は、江戸時代から続く農村歌舞伎が今も受け継がれている、全国的にも珍しい地域です。農村歌舞伎は、農民が自ら役者となり、衣装や舞台を整え、収穫を祝う祭礼などの場で演じてきた、暮らしに根ざした芸能でした。人と人とのつながりの中で育まれてきたこの文化は、地域の歴史そのものとも言えます。

神戸市北区には、日本最古の農村歌舞伎舞台である北僧尾農村歌舞伎舞台（1777年建立）をはじめ、多くの農村歌舞伎舞台が建てられてきました。特に山田町周辺では、江戸時代以降に14棟もの農村歌舞伎舞台が存在していたことが分かっています。現在も、谷上駅近くの上谷上農村歌舞伎舞台、箕谷駅近くの下谷上農村歌舞伎舞台が上演可能な状態で残されており、いずれも茅葺屋根をもつ貴重な文化財です。一方で、舞台の消滅や担い手の高齢化など、継承に向けた課題も少なくありません。



▲茅葺屋根をもつ、貴重な下谷上農村歌舞伎舞台



▲現在も上演可能な、北区を代表する上谷上農村歌舞伎舞台

また、北区の歴史をたどると、土地の成り立ちが人々の暮らしに大きく影響してきたことが分かります。大池駅周辺から谷上～有野台地にかけては、池や沼、湿地、水田が点在していた低地であったことが、古い地形図などからもうかがえます。実際に、この近隣に長くお住まいの利用者様からは、「大池には昔、池があった」というお話を伺うことがあり、土地の記憶が今も人々の語りとして静かに受け継がれていることを感じます。



▲かつて池があった場所：現在は商業施設

私たちは、こうした地域の記憶や文化に目を向けながら、福祉・介護

の立場から、人と地域をつなぐ存在でありたいと考えています。北区の文化が、これからも人々の暮らしに寄り添い続けることを願っています。



▲地獄谷：六甲山の自然が色濃く残る谷



▲大池駅：2023年3月にリニューアルされた、地域の玄関口

第50回学術運動交流集会 開催!

テーマ 医療・介護・まちづくりの充実は平和憲法あってこそ ~戦後80年のち輝く社会を次世代につなごう!~



記念講演 被爆80年 核兵器廃絶の願いを行動に!被爆者の思いを引き継ぐのは私たち



日時・場所：2026年1月18日（日）神戸国際会議場
 参加者：午前、806人 午後、420人
 演題登録数：159演題（オールポスターセッション形式）
 分科会数：16分科会（9~10演題/分科会）×座長賞選出

今回は、会場予約の関係で前回より1ヵ月早い1月開催となりましたが、実行委員や座長、その他運営に関わるみなさん・発表者のみなさんのご協力で支障なく当日を迎えることが出来ました。ありがとうございました。

被ばく80年ということで、記念講演では長崎県原水協代表理事 田中弘法氏にご登壇いただき、

「高校生が描いた原爆の絵」展示会を行うなどメインテーマに沿った企画を行いました。「被爆者の思いを引き継ぐのは私たち」を考える上で“自分事として考える”ための一歩を踏み出す良い機会となったのではないのでしょうか。

当日の活気あふれた会場の様子をお知らせします。



亀崎実行委員長の閉会挨拶



折り鶴コーナー



平和のパネル展

感想アンケートより

「生活背景や社会環境など改めて視野を広げてその人を見ていくことの大切さを感じた」

「ポスターの出来が年々レベルアップしている」

「体験者の話を聞いてあぐさの絵を表現出来るのは、高校生たちの感受性の高さと絵を描く前の下準備がしっかりされた結果だと思った」

「記念講演では最後の『被爆90年はないのです』の言葉が印象に残り、語り継ぐことが必要だと思った」



座長賞授賞式

座長賞 受賞者一覧

分科会	氏名	職種	事業所名	演題名
第1分科会	藤原 美加	看護師	萌クリニック	当クリニックの熱中症対策でみてきた傾向と今後の課題
第2分科会	安藤 かな	看護師	尼崎医療生協病院	患者からの暴言暴力、ハラスメントの実際と当院における対応
第3分科会	吾妻 恵	看護師	東神戸病院	気になる患者の見える化と見逃さない仕組み作り～外来看護師の役割～
第4分科会	藤堂 知子	看護師	神戸協同病院	緩和ケア病棟におけるミニデスカンファレンスの試み
第5分科会	山本 花菜	事務	本田診療所	本田診療所におけるデータ抽出とはがき郵送による組合員健診受診促進への効果について
第6分科会	吉村 葉月	管理栄養士	特別養護老人ホーム 駒どりの郷	看取り期のあたたかい食事
第7分科会	津曲 知香	介護福祉士	デイサービスさろお	10ケアで支える“その人らしさ” 主体的生活の実現を目指して
第8分科会	太田 絵梨	理学療法士	老人保健施設 ひだまりの里	介護の現場から始まる変革～多様な人材と共に築く新しい組織づくり～

分科会	氏名	職種	事業所名	演題名
第9分科会	西岡 葵	理学療法士	共立病院 通所リハビリテーション	通所リハビリのリニューアルオープン記「自分の為に自分です」新しい自立支援の一步
第10分科会	地神 弘幸	介護福祉士	看護小規模多機能 すすがせ	見守りセンサー「HitomeQ」(ヒトメク)の使用による業務の変化について
第11分科会	西本 美知子	組合員	尼崎医・共同組織	減塩してみませんか～24時間蓄尿塩分調査に向けて～
第12分科会	寺島 茂	組合員	宝塚医・共同組織	支部運営で心がけていること
第13分科会	園田 奈津子	介護福祉士	特別養護老人ホーム あまの里	被爆80年原水爆禁止世界大会に参加して～法人内での平和学習・活動を考える～
第14分科会	松本 直子	歯科医師	共立歯科	患者の主観的評価を大事にした顎義歯
第15分科会	網干 慎太郎	作業療法士	姫路医療生協・本部	安全な送迎業務を目指して～バックドアによる頭部衝突事故について～
第16分科会	井上 世那	看護師	尼崎医療生協病院	人それぞれの生活の在り方～私たちにできること～

生存権 No.186

“家で暮らしたい”という願いに 寄り添い続けて ～A氏と見つけた支えのかたち～

氏名：A氏
年齢：80代後半
独居男性

兵庫民医連 看護委員会

経過

長年一人暮らしを続けてきたが、慢性心不全と糖尿病の管理がうまくいかず、入退院を繰り返していた。家族や親族とは長年連絡を絶ち、地域包括支援センターとの接点はあったものの、訪問サービスの利用歴はほとんどなかった。ある日、自宅で転倒し、低栄養状態で発見され救急搬送となり、急性期病院での治療後、在宅調整を目的として地域包括ケア病棟へ転院となった。

入院時、A氏には中等度の認知症があり、日付や場所の把握が難しいことや、話した内容を保つのが苦手な様子が見られた。歩行は不安定で食事も進まず、在宅復帰には多くの課題があった。それでもA氏は「家に帰りたい」と繰り返し訴え、施設や支援を拒む姿勢は変わらなかった。独居であること、支援者がいないこと、そして本人の強い拒否感が退院調整を難しくしていた。

こうした状況の中、多職種でA氏の気持ちを尊重しつつ、安全に暮らせる環境づくりを模索した。医師は「今の状態では一人暮らしは危険」と率直に伝えつつ、本人の意向を尊重する形で説明を繰り返した。看護師はA氏の拒否の背景にある不安や孤独に注目し、A氏が心を閉ざさないよう、日々の何気ない会話を大切にしながら信頼関係を積み重ねた。

リハビリ職は、A氏が「できないこと」ではなく「できることをどう伸ばすか」に焦点を当て、本人が納得して取り組める関わり方を工夫した。またMSWは、成年後見制度の検討や地域支援の導入に向け調整を進めながら、A氏が抱える「人の世話にはなりたくない」という価値観を理解し、それを踏

まえた制度説明を重ねた。地域包括支援センターとも早期から連携し、退院後の見守り体制の構築について話し合いを深めた。

スタッフ間では、「どうすればA氏が安心して暮らす権利を守れるのか」「どこまで本人の意思に寄り添い、どこで安全を優先すべきか」を何度も検討した。こうした粘り強い対話を積み重ねた結果がA氏の心に少しずつ変化をもたらした。

次第にA氏は「訪問看護なら…」「少しなら助けてもらってもいいかもしれない」と支援を受け入れる姿勢を見せるようになり、退院時には栄養状態も改善し、杖歩行が可能なまでに回復した。地域の見守りや訪問サービスが整い、退院後も安心して生活できる土台が築かれたことで、A氏は「助けてもらいながら家にいるのも悪くない」と笑顔で語るようになった。

考察

今回私たちが多職種で行ったことは、“A氏が安全に、そして自分らしく暮らす道を共に探す”という、姿勢の積み重ねだった。支援を拒む背景には、長い年月をひとりで生き抜いてきた自負や、迷惑をかけたくないという思いがあった。私たちはその気持ちに寄り添い「どうすればA氏が安心して暮らせるか」を一緒に考え続けた。

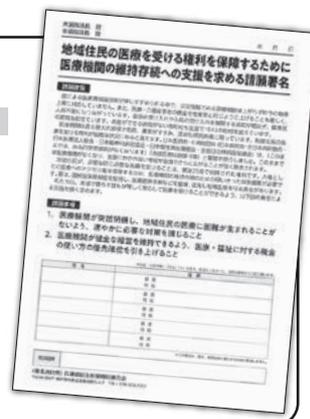
A氏は次第に心を開き、“支援は暮らしを守るための味方である”と実感するようになった。これはスタッフの丁寧な関わりとの積み重ねが生んだ変化であり、A氏の「家で暮らしたい」という願いを実現させる原動力となった。

「緊急行動」署名目標の45,000筆達成！

全日本民医連が呼びかける「緊急行動」は、地域医療の崩壊を防ぐために、国へ緊急の政策転換を求める取り組みです。全国では100万筆の署名目標を掲げ、住民の受療権を守るための声を集め目標の45,000筆を達成しました！

各事業所・職員のみなさんの粘り強い働きかけと、地域の方々の「医療を守りたい」という願いが結実した結果です。今後とも取り組みをすすめていきましょう！

1月21日現在 46,620筆



読者の声

●昨年末に体調を崩し、なかなか本調子に戻らず。歳を感じる年末でした。今年こそ健康に気をつけながら、よい年になればいいなと思っています。

ペンネーム ちこ

●物価が高くなって生活が大変です。いのちと暮らしを守る政策が必要だと実感します。

東神戸病院 山本浩介

●1・2月号のまちがいさがし、左上の女性と男性の違いなど、わかりやすくて解きやすかったです。毎号こうだといいなあ。

東神戸病院 黒瀬智子

●はじめて応募しました！次号が楽しみです。2年前にOBになりましたが、人がいないということで週2~3回診療所に行っています。患者さんにはホントに楽しく学ばせてもらってます。1・2月号、チームで目指す「今年の漢字」は各々の院所の想いが伝わってきました！「生存権」もよかったです！

ペンネーム クロミちゃん

●今年高校受験を控えている孫がいます。一緒に住んでいないので、どの程度の学力かがわからないので心配です。結果が出る3月まで不安な毎日を送っています。

HSTあぼし 栗林由季

●神戸市バスの路線廃止や減便の計画にもろに影響を受ける地域に住んでいます。最近膝や腰の痛みもあり頻繁に利用する市バス。廃止になったら交通難民に！パブリックコメントで実情を訴えましたが、高齢者が多く声を上げられない現状があります。交通弱者の足を奪わないで欲しいですね。

神戸医薬研究所OB
村川美和子

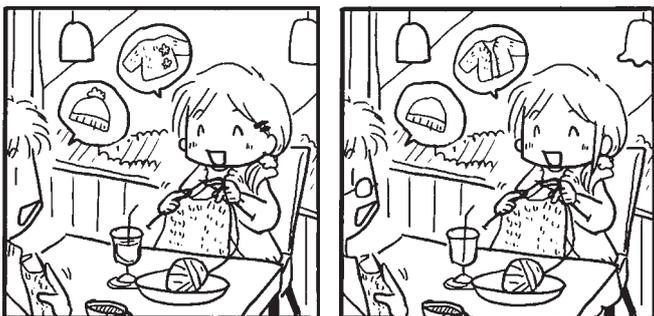
●1月中旬少し暖かい日に娘の所へバイクで行き、孫・娘・私の3人で庭の草抜きをしました。孫に「今度寄せ植え一緒にしようね」と言うと「一緒に植えたい」という返事が返ってきてうれしかったです。

宝塚HSTひだまり
有助辰恵

まちがいさがし 3・4月

正解者のうち5名の方に図書カードを差し上げます。

まちがいは8つ



作・小田 求

【応募のきまり】

〈締切〉2026年4月8日(水) ◇当選者は2026年5・6月号に掲載。

〈応募〉1人1通。はがき又はEメールで。

氏名(投稿はペンネームでも可)、院所名(職場・職種)、OBの方は在職時の法人名を記入の上、下記へ送付して下さい。

〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7
兵庫民医連ニュース「クイズ」係

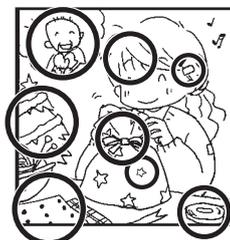
〈Eメール〉kikansi@hyogo-min.com

※余白に、①興味深かった記事と感想、②事業所での取り組み紹介、③近況、④ニュースへのご意見等、お書き下さい。

1・2月号の応募者は7名で全員正解でした。右記の5名の方に図書カードを進呈。

- ①山本 浩介(東神戸病院)
- ②クロミちゃん(ペンネーム)
- ③村川美和子(神戸医薬研究所OB)
- ④黒瀬 智子(東神戸病院)
- ⑤有助 辰恵(ヘルパーステーションひだまり)

1・2月号の答え



法人 topics

兵庫県医療事業協同組合

連載コーナーです。

法人で“キラッと輝く”職員の、民医連で働き続ける理由や、こだわりを紹介します。

セントラルキッチン事業部はあもにい

森本 修平さん

調理師



仕事でのこだわり

正確性・スピード・出来栄えの原則に基づいて仕事の質を高めるように努力しています。その考えを職場全体に広げ、課題解決や目標達成にむけてベクトルを合わせれるように取り組んでいます。

調理師として食を通して医療の一環になっている事やイベント食の提供で笑顔作りに貢献できている事が実感でき、やりがいとなっています。

入職したきっかけ

調理師専門学校を卒業後、ホテルや飲食で勤務する中で、専門学校時代からの友人が(株)はあもにい(当時)で勤務している事を知り、自身も調理師として経験してきた事を活かす事が出来るセントラルキッチンの調理システムを学びたいと思い、入職しました。

セントラルキッチン/サテライトキッチンでの厨房業務やイベント食の提供に携わらせていただいています。給食調理の難しさや奥深さを日々実感しながら品質の向上に取り組んでいます。

プライベート

現在は4人の子どもの子育て中でもあり、自身の趣味に熱中するのではなく、子どもたちの部活の観戦や習い事の発表会を見る事が楽しみです。私自身、中学高校と陸上部に所属していたこともあり運動する事が好きなので、休日は子どもたちと身体を動かして遊んでいます。また、小学4年生の長男が熱中しているカードゲームと一緒に熱中して大会等に参加して楽しんでいます。



兵庫県医療事業協同組合

PFAS血液検査と結果説明会を行いました！

兵庫民医連PFASプロジェクトチーム 白石 紀代子

12月6日(土)ひまわり診療所(明石市二見町)にて兵庫民医連第2回PFAS血液検査を実施し、54名の方が受けられました。1月11日(日)午後、明石市で行われた結果説明会には71名(現地62名オンライン9名)の方に参加いただきました。県会議員や市議会議員、マスコミ2社の参加と地域の関心の高さが伺えました。

説明会では、全国的に高濃度汚染が確認された大阪や東京と兵庫は大きく差がないことも報告され、兵庫でも汚染が広がっていることが示唆されます。

大阪府は汚染源がある程度特定されている(PFAS製造元も排出を認めている)のに比べ、兵庫県は汚染源があまり明確ではありません。また高濃度の水道水汚染が確認されていない地域に居住の参加者の中でも、一部で高濃度の方がみられる、などの状況も気にな

りました。PFAS第一人者の小泉京大名誉教授は「産廃場や空港、自衛隊駐屯地、また大阪からの影響など様々な要因が予想される、生活習慣もあるだろう、兵庫はいろんな汚染源があると予想される。そもそも汚染源の特定は行政がすること。汚染源を特定しないと運動がすすめられない」という思考になってはいけません。アドバイスをいただきました。

PFASPJの瀧本先生がPFAS問題でラジオ出演されました！
YouTubeで試聴できます！

ラジオ関西「兵庫県保険医協会の聴く医療」(15分×2回)

